

TeX 6.2c05



小磯 憲史

2016-09-21

目次

第1章	JTeXEdit について	3
1.1	インストール	3
1.2	環境設定	3
第2章	JTeXEdit 6.2	4
2.1	shell tex での使用法	4
2.2	JTeXEdit の使い方	4
2.2.1	編集ウィンドウ	4
2.2.2	Log ウィンドウ	5
2.2.3	ファイルメニュー	5
2.2.4	編集メニュー	6
2.2.5	書体/絵メニュー	6
2.2.6	表示メニュー	7
2.2.7	移動メニュー	7
2.2.8	組版メニュー	7
2.2.9	指令メニュー	9
2.2.10	本棚メニュー	9
2.2.11	ヘルプメニュー	10
2.2.12	その他	10
2.3	環境設定ウィンドウ	10
2.3.1	ファイル	10
2.3.2	編集基本	10
2.3.3	編集字体	10
2.3.4	ウィンドウ	11
2.3.5	検索	11
2.3.6	メニュー	11
2.3.7	原稿印刷	11
2.3.8	TeX 基本	11
2.3.9	TeX 詳細	12
2.3.10	指令	12
2.3.11	環境	12
2.4	項目設定ウィンドウ	13
2.5	検索ウィンドウ	13
2.6	JTeXEdit の書式	14

2.6.1	拡張機能	14
2.6.2	分割組版	14
2.6.3	原稿の書体・色・絵	14
2.6.4	はめ込み文書	15
2.7	環境設定フォルダ	15
2.8	外注処理	15
2.9	辞書	15
第3章	PictPrinter 5.2	17
3.1	インストール	17
3.2	使用法	17
3.3	PictPrinter の機能	17
3.3.1	画面	17
3.3.2	メニュー	18
3.3.3	環境設定	19
3.4	フォントについて	19
3.5	その他	20
第4章	その他	21
	索引	21

第1章 JTeXEdit について

JTeXEdit は TeX 組版と各種スクリプトを重視して作られたエディタである。shell tex に統合環境を提供する。各種スクリプトをマウスで実行する。次のこともできる。

- TeX: 原稿を書くに従って組版画面を更新 (原稿変更時に再組版); 原稿と組版をクリックで相互参照 (PictPrinter アイコン); 原稿の書体や絵をそのまま組版; 入力パレット; TeX 用に強化された入力補完;
- 編集: 同じ文字列の場所に直接移動する参照メニュー; 定型的な文章を挿入/置換する簡易置換メニュー, 定型文メニュー, 文字列変換メニュー;
- スクリプト: ファイルをマウスで引数として与えることができる。

このソフトは OS X 10.7 (Lion) 以上で動作する。この手引きではフォルダ “A” の中のファイル “B” を “A/B” で、メニュー “X” の項目 “Y” で表示されるダイアログの項目 “Z” を “X > Y > Z” であらわす。項目名だけでわかるようなものは説明を省略する。

1.1 インストール

JTeXEdit はいくつかのソフトを連携して統合する機能を中心に開発されている。標準的には PictPrinter, shell tex を併用する。Shell tex は MacTeX を推奨する。JTeX に添付されていないものは、それぞれ 外注処理 の場所から入手して、別個にインストールすること。

JTeXEdit, PictPrinter: Applications (アプリケーション) フォルダに置く。

shell tex: 外注処理のいずれかの ptex パッケージをインストールしておく。

TeX 用フォント: TeX で基本的なフォントを JTeX と同じ WWW に集めてある。その後、次の環境設定に従って基本的な設定をする。PictPrinter の章も参照。

1.2 環境設定

最初に JTeXEdit を使う時に、最小限の初期設定をする。

0. JTeXEdit を起動し、“JTeXEdit > 環境設定...” ウィンドウを開く。
1. 環境 > 併用するソフト: PictPrinter に ✓ を入れる。
2. 編集字体: “単一書体のみ使用” に ✓ を入れる。基本欧文字体は Courier, 和文字体はヒラギノ明朝 Pro W3, 印刷の文字の大きさは 10 ~ 12pt が標準。画面上の文字の大きさは原稿の拡大率で設定する。100% にしておいて後から変更すればよい。
3. ウィンドウ: “ファイル > 新規” メニューで新規文書をつくり、使いやすい大きさにして、“前面のウィンドウに合わせる” ボタンを押す。
4. TeX 基本:
 - (1) 場所: MacTeX は “/usr/texbin” または “/Library/TeX/texbin”。
 - (2) 様式: 通常は platex. MacTeX 2011 の platex は “eptex > platex”。
 - (3) 自動表示: PictPrinter.
5. TeX 詳細: “原稿変更時に再組版”, “PictPrinter で原稿の変更場所を表示” に ✓ を入れる。

第2章 JTeXEdit 6.2

2.1 shell tex での使用法

JTeXEdit で原稿を書いて組版し、PictPrinter で印刷する。下記の支援機能を参照のこと。複数文書で変換を用いる場合は後述の“分割組版”を参照のこと。

1. 説明のため、新しい文書名を *ABC* とする。
 1. JTeXEdit を起動し、新しい文書を *ABC* として保存する。
 2. “組版 > TeX 様式” メニューから希望の shell tex 様式を選ぶ。
 3. 通常のとおり TeX 形式で入力する。(詳しい書き方は“JTeX の書式”参照。)
 4. “組版 > 組版” メニューを選ぶ。すると、結果が表示ソフトによって表示される。
 5. 下の支援機能 (c) で誤りを探して修正する。
 6. 3-5 を繰り返して完成したら表示しているソフトで印刷する。
- (%) 以下の支援機能がある。“組版 > 自動表示”を PictPrinter に指定しておくこと。
- (a) 原稿を command-クリックすると PictPrinter が対応する場所を表示する。逆に、PictPrinter の表示を command-クリックすると、JTeXEdit の原稿の場所に跳ぶ。数式や数字ではなく、通常の文字が並んでいる部分をクリックするのがコツ。
 - (b) “組版 > 組版補足設定 > 原稿変更時に再組版” メニューに ☒ を入れておけば、原稿を書いたときに自動的に再組版する。“組版 > 組版補足設定 > 変更点に自動追従”メニューに ☒ を入れておけば、組版時に PictPrinter が自動的に原稿上での選択場所を表示する。
 - (c) 誤りがあれば、原稿のその位置に移動する。ただし、原稿変更時に再組版のときは実行ボタンが「!」になるだけで、移動しない。“組版 > TeX 誤り”メニューや実行ボタンの TeX 誤りメニューで編集画面のその行に移動できる。“*ABC.log*”ウィンドウの警告文を command-クリックしてもよい。

2.2 JTeXEdit の使い方

2.2.1 編集ウィンドウ

書類をマウスで運んで落としたとき、それが絵の書類なら絵として貼り込み、そうでなければ書類の経路を挿入する。絵の場合でも、command キーが押されていれば、経路を挿入する。ただし、スクリプト文書として指定されているときは動きが異なる。

- 下記の道具欄は“表示 > 道具欄を表示/隠す”メニューで表示/非表示にできる。
- 一番左のボタンは command-クリックの意味を切り替えて実行する。

PictPrinter アイコン: PictPrinter で対応する組版箇所を表示する。

地球アイコン: WWW や e-mail を開く。それぞれ Safari, Mail の“環境設定... > 一般”で使うソフトを選択しておくこと。一文字以上選択されていればその文字列が用いられ、そうでなければ近くの適当な文字列が用いられる。

- その右側に、以下のメニューやボタンがある。これらの詳細設定は“環境設定... > メニュー > 道具欄メニュー”

拡大縮小アイコン: 画面表示を拡大縮小する。“表示 > 拡大/縮小”メニューと同じ。

目印アイコン: 目印の行に移動する。

目次アイコン: “目次設定...” で設定された文字列の場所を一覧し、移動する。

参照アイコン: 選択文字列と同じ文字列の場所を一覧し、移動する。

お好みメニューアイコン: “お好みメニュー設定...” で登録されたメニューの表示。

所在地: クリックすれば文書の場所を複写できる。

自動再組版/追従ボタン: “原稿変更時に再組版”, “変更点に自動追従”メニューと同じ。

実行/選択ボタン: 左側は“組版 > 組版”か“指令 > Script を実行”メニューと同じ。組版中は強調色になる。右側は、通常は文書の種類を選択する状況メニューだが、誤りがあれば‘△’に、警告があれば‘!’に、表示を変える。

- 分割ボタン, 削除ボタン: スクロールバーの上端にある。表示を上下に分割/閉じる。
- 行番号パネルの詳細設定は“環境設定... > ウィンドウ > 行番号を表示”で行う。また, “編集 > ウィンドウ枠 > 行番号を表示”メニューで表示/非表示にできる。
- 状況メニュー (コンテキストメニュー) も使える。項目設定は“状況メニュー設定...”。
- JTeXEdit は command キーを相互参照に割り当てているため, 分離した選択が標準と異なる。分離した行の選択には command-shift を用いること。

2.2.2 Log ウィンドウ

log ウィンドウにでる誤りを command-クリックすれば原稿のその場所に跳ぶ。また, 誤りの場合に自動的に原稿のその場所に跳ぶ機能もある。“環境設定... > TeX 詳細 > 誤り発見の鍵を設定...”を参照のこと。

2.2.3 ファイルメニュー

- 項目を整理...: 最近使った項目一覧の順序の変更, 部分的な削除。
- よく使う文書: 登録文書を開く。

よく使う文書に登録...: 最前面の文書に登録する。

文書登録を編集...: 登録文書一覧表を開く。文書を引きずって表に落とすことで一括登録や削除ができる。フォルダを入れることもできる。

(項目一覧): フォルダは階層表示される。また, option/alt キーを押せば, 通常 JTeXEdit で開かない書類も選べるようになる。command キーを押しながら項目を選ぶと, どのソフトで開くかを指定できる。

- 選択名の文書を開く: 選択部分を文書名と見なして開く。
- 別の文字符号で読み込む: 読み込んだ文書が文字化けしているときは, 文字符号を指定して読み込み直すこと。原稿を変更した後ではこのメニューは使えない。
- 文書の種類...: 種類を選ぶと“詳細”に記入される。これは実行ボタンを押し続けることでも呼び出せる。

スクリプト文書: これに ✓ を入れればウィンドウがファイルの受け入れ口になり、マウスで落とされたものを引数として処理するようになる。一時的に文章やファイルの経路を原稿に挿入したい場合は `command` キーを押せばよい。スクリプトの形式は `Script` を実行 を参照。 `dragdrop_sample` を参考に。

注釈記号: 注釈記号を変更する。これは “**** を付加/削除” メニューに影響するほか、スクリプト文書の種類の判定に用いられる。

文字符号: 保存時の文字符号の指定。TeX の場合、通常は SJIS にしておくこと。

改行形式: 保存時の改行形式の指定。通常は Unix 形式にしておくこと。

- ウィンドウの状態を保つ: 開き直したとき、ウィンドウの位置などを再現する。
- 図の位置情報を複数保持する: 複数の Mac で同じ文書を用いるとき、含まれる図を再現しやすくする。
- 原稿の印刷...: 余白などは “環境設定... > 原稿印刷” で設定できる。

2.2.4 編集メニュー

- 文章のみの複写: 書体なしで文章だけの複写。
- 文章のみの貼り込み: 書体なしで文章だけを貼り込む。
- 定型文: よく使う文章を挿入する。
- 簡易置換: “XYZ” ⇒ “{\bf XYZ}” などの変換。
- 文字列変換: 小文字 ⇒ 大文字などの変換。自分で作るときは `documents/readme/others/script-readme` を参照。
- 入力パレット: `documents****/edit_palette/palette-readme` に表を自分で作る説明がある。各パレットは、`option/alt` キーを押しながらつまみを押して複数の表を表示できる。環境設定の入力パレットも参照。
- 単語入力補完: 単語補完は、通常の単語、TeX 指令、LaTeX 環境、を区別して動作する。慣れれば `\b<esc>{e<esc>X` の 7 打で “`\begin{enumerate}\item X\end{enumerate}`” が挿入される。LaTeX 環境は、`JTeXEdit Preferences/TextPrefs/TeXCSName/` に個人用の表を置くことで、追加や変更ができる。`JTeXEdit.app/Contents/Resources/DefaultPrefs/TextPrefs/TeXCSName/latex.envs.plist` を参照。
- 印付きテキスト: 書体付きテキストをスクリプトなどで処理するために、書体を印し付きに変換とその逆変換。
- 設定項目: JTeXEdit 環境設定の各項目設定ウィンドウを開いたときに有効になる。

2.2.5 書体/絵メニュー

- 単一書体のみ使用: 複数書体を許さない。通常の TeX 文書やプログラムではこの方が使いやすい。
- 書体を削除: 書体を “環境設定... > 編集字体” で指定された標準のものに戻す。
- 書体のみを置換: 書体だけをクリップボードのものと置き換える。
- 字体一覧を表示: フォントパネルを開く。字体は欧文和文 1 つずつしか使えない。
- 大小: 文字の印刷用の大きさ。画面表示の大きさは “表示 > 拡大/縮小” メニューを使うこと。

- 絵の情報...: 選択範囲の絵の大きさを変更したり名前を付け替えたりする。単独の絵ならダブルクリックして開くこともできる。文書の絵の表示形式を一斉に変更したいときは、全体を選択しておけばよい。複数の絵が見つからないときは、絵を変更... の右の箱にフォルダを入れるとそこを検索する。
- 絵の取込...: 絵を貼り込む。ディスク上からマウスで運んで落とす方が楽。
- graphicx として複写: `\includegraphics` の形式で複写する。

2.2.6 表示メニュー

- 拡大/縮小: 図を含めて編集画面を拡大する。印刷には適用されない。
- 表示を分割, 分割を閉じる: スクロールバー上部のボタンでの方が使いやすい。
- \a 追加登録, \a 追加登録を削除: 文書中の \-文字列を登録し、色をつける。(\\-指令 参照.)

2.2.7 移動メニュー

- 指定行に移動...: その行に移動する。“文書の行番号”は通常行番号。何行の何文字目と指定する。“TeX の行番号”は TeX の誤りの行番号などに用いる。
- 検索...: 検索ダイアログを開く。
- 次の節を検索: “本を検索”で、次の文書から検索を継続する。
- 綴り点検, Excalibur: OS X 綴り点検と Excalibur 綴り点検。

最初 (Excalibur): 文書の先頭から点検する。

無視: 正しい単語として一時的に記録する。その記録は終了時に破棄される。

追加: 正しい単語として記憶する。

次を検索: 何も記録せずに選択箇所の次から点検する。

変更: 選択された修正候補に直す。修正候補をダブルクリックしてもよい。

なお、J_TE_XEdit からの点検と Excalibur からの点検は結果がわずかに異なる可能性がある。通常は J_TE_XEdit で点検をして、最終版で Excalibur で直接点検すれば完全。これらの詳細設定は“環境設定... > 検索 > 綴り点検の詳細”。

- (Excalibur での点検について) Excalibur 綴り点検で追加した単語は 設定フォルダの `TextPrefs/LearnedWords.utf8` に保存される。保存結果を編集するには、複製を編集して UTF-8 で保存し、J_TE_XEdit を終了してから置き換えること。また、設定フォルダの “TextPrefs/Dictionary” に MacRoman で単語を書いたファイル (1 行 1 単語) を “****.words” の名前に入れてもよい。Excalibur で作った単語表を入れれば点検が早くなるが、メモリがかなり必要。
- 組版点を表示, WWW を表示: それぞれ道具欄のアイコン (PictPrinter アイコン, 地球アイコン) に対応。

2.2.8 組版メニュー

通常、組版メニューなどは親文書があれば親文書を対象にする。しかし、ウィンドウを組版メニューだけは例外で、常に前面のウィンドウを組版する。

- 組版を中止: 組版ができない場合は、J_TE_XEdit が組版中と誤認している可能性がある。そのときはこれで強制中止する。

- 様式: 組版の様式を指定する。
- TeX 文字符号: TeX に渡す文字符号を指定する。“保存形式と同じ”が標準。
- 自動表示: TeX の通常の表示を指定する。この一覧は“環境設定... > TeX 基本 > 自動表示 > 表示ソフトを追加...”で設定する。PictPrinter を勧める。
- 変換形式: J_TE_XEdit による変換を指定する。通常は“標準変換”でよいが、特別な用途のために“変換しない”も選べる。変換の種類は 2 つある。

初期化文書を読み込む: J_TE_XEdit の機能を有効にするための初期化文書を読み込む。必要なら、これを無効にして、個々に `\input` してもよい。

書体と絵を埋め込む: 字の大小、色や絵をそのまま TeX に渡す機能を使う。どの機能かは“環境設定 > TeX 基本 > 書体と絵を埋め込む”で指定する。また、`%#` 指令による制御もできる。

- 組版: TeX による組版を行う。既に組版された文書に `\input, %#command - \input` されている場合はその親文書を組版する。
- ウィンドウを組版: 親文書があっても自分自身を組版する。
- ウィンドウを走査: `%#command — \input` される文書を走査し、本棚メニューに本として表示する。なお、組版または変換すれば自動的に走査されるが、同名のものは前の走査時の文書を用いる。
- 組版を表示/印刷: 既に TeX で処理された結果を表示する。PictPrinter と“環境設定... > TeX 基本 > 自動表示”の表示ソフトが選べる。
- 組版補足設定: 組版の細かい設定をする。

原稿変更時に再組版 (Flash mode): 入力があると自動的に組版を再実行する。組版中も入力が続けてよい。初期化文書を読みこむ設定にしておくこと。

変更点に自動追随 (Follow focus): 組版後選択場所を PictPrinter が表示する。

src-specials: J_TE_XEdit と PictPrinter は参照点を tex の src special をヒントに相互連絡する。科研マクロなどではむしろ妨害になるのでその機能を無効にする必要がある。通常は ☒ を入れておくこと。

複数回組版: `compile` を複数回実行してから表示する。回数は“環境設定... > TeX 詳細 > 複数回組版”で設定。

組版結果を保持: 組版結果 (`****.dvi`) を保持する。次にこの文書を開いたときに自動的に組版画面を表示する。

一時書類を保持: 組版に用いた一時的な書類を保持する。通常は捨てればよい。“環境設定... > TeX 詳細 > 一時書類を保持”を参照。

自動保存: 組版の前に文書を保存する。“環境設定... > TeX 詳細 > 処理前に保存”, “自動再組版前にも保存”を参照。

- TeX 誤り: TeX の誤りと警告の一覧。選択すればそこに移動する。誤りは“環境設定... > TeX 詳細 > 誤り発見の鍵を設定...”の文字列で判定する。
- その他:

ディスクに変換: 日本語、書体、絵、を Shell TeX 用の形に変換してディスクに保存する。文書 *ABC* は *ABC.xfer* に保存されるが、例外として、文書“*XYZ.=*”は文書 *XYZ* として保存される。

2.2.9 指令メニュー

他のソフトを制御する。perl による複雑な検索／置換などはこれで命令する。

- 指令設定...: このメニューを作る。他のソフトに命令する場合は、“環境 > 併用するソフト > 他の併用ソフト...” に登録しておくこと。階層メニューも作れる。指令の内容はウィンドウの下の部分に記入する。指示のしかたは documents/readme/others/script-readme を参照。
- 順序処理...: 複数のファイルで順序に意味がある処理の場合は“順序処理”ダイアログに落とし、最後に“実行”ボタンを押す。文字列を落とすこともできる。
- 複数入力を許す: これに ✓ が入っていなければ、ファイルを落とすごとに実行する。入っていれば、落とされたファイルは記録されて“スクリプトを実行”メニューでまとめて処理される。
- 複数入力を取り消し: 上記の記録を取り消す。
- Script を実行: ウィンドウをスクリプトとして実行する。1 行目が
“#!/usr/bin/perl”, “#! sh”, “-- AppleScript”, “% JTeX”,
または shell 形式 (“#!/usr/bin/ruby” など)
のいずれかでなければならない。それぞれ perl, shell, apple script, 指令メニュー形式, shell で実行する。
- 個別の外注指令:
 - MiniTerminal を開く: 簡易 Terminal を開く。命令は行単位でしか処理しない。
 - Perl を実行: 文書をプログラムとして perl で処理する。ファイルの場所は \$ENV{'FilePath'} として perl に渡される。簡単な処理なら文書先頭に __DATA__ で終了するプログラムを書き、文書の中身を <DATA> で処理すればいい。なお、JTeXEdit は perl 5.16 以下を使う。
- スクリプトボタン: スクリプト実行専用の小さなボタンパネルを作る。各ボタンの設定はパネルの右側の設定ボタンで行う。
- スクリプト集: 実用的なスクリプトが入れてある。単に実行するには、スクリプトのウィンドウを開いて“指令 > Script を実行”メニューを選ぶ。何かに作用させるには、スクリプトのウィンドウに対象の文章、ファイルなどをマウスで落とす。開いている文書は頭のアイコンをマウスで落とせばよい。
- スクリプト集フォルダを開く: ScriptCollection に自分で作ったスクリプトを入れることができる。フォルダの階層はメニューに反映される。
- アップルスクリプト: アップルスクリプトについては“Script Editor”の“用語説明を開く...”メニューを参照のこと。
- 標準指令: 標準指令には実用的なものと指令の書き方の例としてのものがある。JTeXEdit.app/Contents/Resources/DefaultPrefs/TextPrefs/TextPref.plist の ScriptMenu を参照のこと。

2.2.10 本棚メニュー

- 後に移動: ウィンドウを一番後に移動する。
- (%) 後半の項目はウィンドウで、最前面には ✓ または下線が付く。走査されたものは本として表示される。
- (各本) 本を閉じる: 親文書と子文書をすべて閉じる。

2.2.11 ヘルプメニュー

- TeX Documents: tex ディレクトリにある説明を閲覧できる。例えば beamer の解説 `texmf-dist/doc/latex/beamer/beameruserguide.pdf` は参考になるだろう。

2.2.12 その他

- 文書名が日本語、空白、特殊文字を含むと組版できないことがある。
特に、`\input` 文書名、前方参照を含む latex 文書の文書名。
- 通常 J_LTEXEdit は一時書類 “*ABC.xfer*” をつくる。ただし、例外として、J_LTEXEdit 文書 “*ABC.=*” に対しては “*ABC*” をつくる。

2.3 環境設定ウィンドウ

このウィンドウで種々の環境設定を行う。個々の項目設定で別のウィンドウが開くものもある。使用法は項目設定ウィンドウを参照のこと。

2.3.1 ファイル

保存形式の標準を設定する。pTeX の文字符号は SJIS が標準。

図の位置情報を複数保持する: 複数の Mac で作業するために、図の位置情報を複数保持する。

2.3.2 編集基本

標準の基本的な機能を設定する。(多くは次に開く文書から適用される。)

賢い切り貼り: 切り貼りの時に自動的に間の空白を削除/付加する。

自動的に記号を閉じる (TeX): `$-$`, `$$-$$`, `{-}` などを自動的に閉じる。

入力パレットに複数の表を表示: 入力パレットのつまみを押すとその表を追加/削除する。
この ✓ を外している場合、option/alt キーを押しながらつまみを押してもよい。

2.3.3 編集字体

字体などの初期値を設定する。

単一書体のみ使用: 複数書体を禁止する。

基本欧文字体: Courier などの等幅文字を勧める。

和文字体: 字体はこれらの 2 種しか使えないが、字体の変形は自由にできる。

大きさ: 原稿印刷の文字の大きさ。10 ~ 12pt が標準。画面の文字の大きさは画面での拡大率で調整すること。

画面での拡大率: 図を含めて編集画面を拡大する。印刷には適用されない。

文書を開くときに文字の大きさを調整: J_LTEXEdit 6.1c よりも前の文書の文字の大きさを現在の環境設定に合わせる。

記号に色付け: TeX 形式に対応して色つきで表示する。

`\cs`, `\?`, `%`, `$`, `##`: `\`-指令, 未定義 `\`-指令, `%`-注釈, 特殊文字, `##`-指令, の色。

2.3.4 ウィンドウ

編集ウィンドウの項目設定を指定する.

モニタ解像度: 通常は自動でよい.

起動時に前回のウィンドウを開く: 起動時に, 前回終了時のウィンドウを全部開く.

ウィンドウの状態を保つ: ウィンドウの場所などを自動保存する.

道具欄を表示: ウィンドウ上部にアイコンボタンなどを表示する.

2.3.5 検索

検索と綴り点検について指定する.

数式の定義...: $\$...\$, \$\$...\$ \$$ の内部を数式とみなすが, それ以外のもの ($\backslash[...\backslash]$ など) を追加できる. この設定は平行検索と綴り点検で用いられる.

2.3.6 メニュー

道具欄メニュー:

目次設定...: “ \backslash section” など目安になる文字列を指定する. 原稿にその文字列があれば 目次アイコンに表示され, その場所に移動できる.

お好み設定...: メニューの複製を お好みメニューアイコンに登録する. メニュー名を指定すること. 同じメニュー名がある場合は “組版 \square : \square 組版” のようにメニューバーから出発した径路を区切って区別すること.

参照数, 頭幅: 参照メニューの最大数と参照文字列の前の表示幅を指定する.

メニューキー設定...: メニューキーを設定する. メニューキー自身はその欄をダブルクリックしてキーを押すことで設定する.

状況メニュー設定: 編集ウィンドウでのコンテキストメニューの項目を設定する.

JTeXEdit のメニューキーを OS X の標準よりも優先: 上のメニューキーをシステム環境設定のキーボードショートカット設定よりも優先する.

色パレットの精度: 色パレットの色の数.

2.3.7 原稿印刷

注釈内容には次の制御文字が使える. $\$F[s1]$ (文書名), $\$P$ (ページ番号), $\$D[sm1f]$ (日付), $\$T[sm1f]$ (時刻), $[*]$ は省略可能で s, m, l, f はそれぞれ短い形, 中間, 長い形, 完全形. $\$ \$$ ($\$$), $\$ \square$ (なし). 各項目は変形メニューで変形を指定できる.

印刷パネルのプレビュー: 印刷パネルに小さな画像を表示するか, プレビューボタンを表示するか.

2.3.8 TeX 基本

変換の設定を指定する.

場所: 標準の shell tex の場所. MacTeX (texlive) なら /usr/texbin . 小川板 pTeX.app が表示されない場合はその他を選んで pTeX.app をアイコンに落とせばよい.

重複する項目を省く: 複数の tex を持っている場合, 同じ様式を省く.

TeX 再走査: tex に変更を加えたら, このボタンで JTeXEdit に認識させること.

文字符号: TeX に渡す文字符号を原稿の保存形式に合わせるか, SJIS/ASCII に固定するか. 保存形式に合わせる方を推薦する.

自動表示: dvi の表示. “PictPrinter” を勧める. 項目は “環境設定... > TeX 基本 > 自動表示 > 表示ソフトを追加...” で編集する. 各行は次のどれか.

ソフト名: “.app” をつけなければならないことがある. JTeXEdit がソフトを認識しない場合は “環境 > 併用するソフト” に登録しておくこと.

“menu ****”: メニュー “****” を実行する.

“shell ****”: シェルスクリプト “****_text.dvi” を実行する.

初期化文書を読み込む: 書体と絵を埋め込むためにはこれが必要. ✓ を入れておくこと.

原稿の書体と絵を組版に埋め込む: 色, 大小, 変形の指定と絵の出力を有効にする. 変形は太字 (bold), 斜体 (italic), 下線 (underline) を認識するが, AMSTeX では不可.

“原稿の書体・色・絵” の項を参照のこと. ギリシャ文字と MacRoman の一部の文字を自動的に TeX 形式に変換することもできる.

2.3.9 TeX 詳細

誤り発見の鍵を設定...: Log の文字列で, 誤りと見なすものを設定する.

組版結果を保持: JTeXEdit で文書を閉じてでも ****.dvi を廃棄しない.

一時書類を消去: .xfer や .aux など最終的には不要な書類を自動的にごみ箱に移動する. どの文書を捨てるかは “設定...” ボタンで指定する. 1 項目は “.aux” など.

原稿変更時に再組版: 一度組版すると, その後は原稿を変更する毎に自動的に組版し直す.

調子: 入力が入力後待機する時間. 間隔は前の再組版実行後待機する時間.

複数回組版: 複数回組版 (Latex mode) での組版の回数.

PictPrinter で原稿の変更場所を表示: PictPrinter で自動表示する場合, 現在の選択場所を自動的に PictPrinter が表示する.

PictPrinter で組版を自動的に開く: 文書を開いたとき自動的に組版結果 (.dvi) を表示する. 組版結果を保持している場合のみ有効. “除く...” ボタンで自動表示をしないものを指示する. 1 項目は “.idx” など.

PictPrinter で組版を自動的に閉じる: 文書を閉じたとき自動的に組版結果も閉じる.

PictPrinter を自動的に終了させる: JTeXEdit が終了するときに PictPrinter も終了させる. ただし, JTeXEdit が PictPrinter を開いた場合に限る.

2.3.10 指令

perl 出力の解釈で UTF-8 を優先: 通常は ✓ を入れること.

正規表現を perl で処理: ✓ を外せば可能な限り JTeXEdit の自前で処理する.

2.3.11 環境

併用するソフト: 併用ソフトの場所の登録/変更を行う. 変更する場合は一度 ✓ を外して入れなおすこと. “他の併用ソフト...” ボタンで標準以外のソフトも登録できるが, スクリプト専用なので通常は不要.

環境を再走査: JTeXEdit の環境設定フォルダを再走査する。環境設定フォルダの内容を直接変更した場合に用いる。

設定を書き出す..., 設定を読み込む...: 各種設定内容を別ファイルに書き出す/読み込む。読み込みでは、元の設定が TextPref_backup.plist に複製保存される。

2.4 項目設定ウィンドウ

環境設定ウィンドウやメニューで個々の項目を設定するとき、専用のウィンドウが表示される。テキスト編集、表形式の編集、階層表形式の編集、の 3 種類ある。いずれも、左下の「?」ボタンで簡単な説明が開く。

表形式と階層表形式の編集ウィンドウには「+」、「-」ボタンがあり、それぞれ新規項目、項目削除を意味する。どのウィンドウも取消機能とマウスでの引きずり機能をもっている。

テキスト編集: Perl スクリプトを除いて、各行に 1 項目を記入する。

表形式の編集: 項目をダブルクリックして編集する。改行や TAB を入れるには option/alt キーを同時に押すこと。メニューキーはダブルクリックしてキーを押して設定する。

階層表形式の編集: 「>」ボタンで階層メニューをつくることができる。階層メニューは左の三角印を押すことで開く/閉じる。項目名はダブルクリックして、項目の内容は下の編集欄で、編集する。他の項目を選択すると編集欄が記録される。

2.5 検索ウィンドウ

- 検索ボタン

一括置換: 本の検索では使えない。

- 補足

本を検索: `\input, %\include` された文書を含めて検索する。

折り返す: 最後まで検索したら、再び最初から検索し直す。

実行して閉じる: 繰り返し検索置換で cmd-G, H を使いたいときに ✓ を入れる。

- 通常の検索

選択文章を入力: “検索...” メニューで開いたとき、文書上で選択されている文字列を自動的に検索文字列にする。これは、検索ダイアログを開いた後からでも取り消しできる。また、“=>置換” ボタンで置換文字列に代入できる。環境設定は“環境設定... > 検索 > 検索/置換欄に選択文字列を自動入力”。

- 正規表現, Perl 検索

正規表現検索は検索欄を Perl 表現として検索、置換する。m//, s///, tr/// が使える。これらの形でない場合は s/<検索欄>/<置換欄>/ として処理する。正規表現で機能が十分でないときは、Perl のプログラムで処理する。documents/readme/others/script-readme を参照。

- 平行検索

平行検索: “abc” ↔ “xy” とか, “10” → “11” → “12” → “13” という変更が一挙にできる。“数式中のみ検索する” に ✓ を入れれば、数式記号としての “a”, “b” だけを置き換えることができる。数式の定義は“環境設定... > 検索 > 数式の定義...”。

- その他の検索

“abc日本語abc” 検索: 半角空白なしに連続した日本字と英字の間に半角空白を挿入。

“abc_日本語_abc” 検索: 上の逆。

異常文字検索: 半角カタカナなど TeX 変換できない文字の検索と全角への変換。

2.6 JTeXEdit の書式

2.6.1 拡張機能

- 原稿の文字の大小, 変形, 色, 背景 はそのまま結果に表れる. “環境設定... > TeX 基本 > 原稿の書体と絵を組版に埋め込む” に ✓ を入れておくこと. L^AT_EX では `\usepackage{MacQDFace}` すること. plain ではまだ不完全で, ページ番号なども変形されてしまうことがある.
- 原稿に貼り付けた図版もそのまま結果に表れる. 貼り付けられるものは環境によって異なるので “原稿の書体・色・絵” の “絵” を参照のこと. (“環境設定... > TeX 基本 > 原稿の書体と絵を組版に埋め込む > 絵” に ✓ を入れておくこと)
- 半角日本字は使えないが, Mac の特殊記号やギリシャ文字は使える. (“環境設定... > TeX 基本 > 原稿の書体と絵を組版に埋め込む > ギリシャ文字など” に ✓ を入れること)
- 以上は J_ETeXEdit と PictPrinter の組み合わせでないと完全には表示されない. “辞書” と添付文書 “pict_face_sample” を参考に.

2.6.2 分割組版

説明のため, 新しい文書名を *ABC*, *XYZ* とし, *ABC* が *XYZ* を `\input` するとする. *XYZ* が書体, 色, 絵, を含まなければ単に *ABC* に “`\input XYZ`” と書けばよいが, 含む場合は *XYZ* を変換したものを渡さなければならない. それには 2 通りの方法がある.

- (A) *ABC* で, “`\input XYZ`” の直前の行に “`%#command`” とだけ書く. この場合, *XYZ* を変換したものがその位置に挿入されて TeX に渡される. ただし, *XYZ* は *ABC* と同じフォルダかその中のフォルダに入れておくこと. エイリアスも使える. あるいは, *XYZ* を J_ETeXEdit で開いておけば, それが挿入される. なお, 挿入された文書は本棚メニューで管理される. 本棚メニューの項を参照のこと.
- (B) *XYZ* を “組版 > その他 > ディスクに変換” メニューで *XYZ.xfer* に変換しておき, *ABC* には “`\input XYZ.xfer`” と書く. この場合, TeX は *XYZ.xfer* を `\input` する. ただし, *XYZ* は *ABC* と同じフォルダに入れておくこと. また, *XYZ* の名前は英字しか使えない.

通常は (A) の方法でよいが, メモリ不足などのためにできない場合は (B) の方法による. 文書が非常に長くて全体を組版するのでは一々時間がかかりすぎるというときは, 文書を分割して作っておき, それぞれを組版しながら修正し, 最後に全体をまとめて組版することになる. sample フォルダの “分割組版(A)”, “分割組版(B)”, “分割組版(LaTeX)” を参照のこと.

注意: (A) の方法で一度 *ABC* を組版すると, *XYZ* が前面にある状態で組版しても *ABC* が組版される. *XYZ* 自身を組版するためには一度 “組版 > ウィンドウを組版” する必要がある.

2.6.3 原稿の書体・色・絵

J_ETeXEdit は原稿の書体, 色, 絵をそのまま TeX に反映させる機能がある. しかし, Mac OS の変更などの理由で将来は保証できない. あくまで限定されたその場限りのものである.

“`abc{pqr}`” のように “{”, “}”, “\$” を跨がったり, “`\name`” のように指令を分割してはいけない. 数式中では色の指定だけを用いたほうがよい. (“`x^y`” → x^y のように数式全体を大きくしたりすることはできる.)

初期文書を読み込まずに `\input editstyles` とすれば, J_ETeXEdit の別の処理と独立に書体と絵が埋め込める.

大小, 変形: 字の大小 (size), 太字 (bold), 斜体 (italic), 罫文字 (outline),

影文字 (shadow) と 下線 (underline) を認識する. 組み合わせてもよい.

色, 背景色, 枠色: 字, 背景, 枠 の色を認識する. 組み合わせてもよい.

絵: PictPrinter は種々の形式に対応している. dvipdfmx でも同様な表示が得られるは
ずだが, .png は 72dpi でないと大きさが異なる. sample を参照.

親分書から絵文書への経路の途中に PictPrinter が解釈できないものがあるのはいけないので,
日本語や空白文字は使わず, なるべく近くに置くのが安全. ABC.pics に保存される書類には
****2.pdf というような簡単な名前がつけてある. “書体/絵 > 絵の情報” メニューで適切な名前
に変更すること.

2.6.4 はめ込み文書

JT_EXEdit で文書を埋め込むのには `\input` と `%#command — \input` がある.

`\input` はそのまま TeX に渡すので細かい制御ができるが, 絵や書体など JT_EXEdit
固有の処理ができない. 固有の処理のためには “組版 > その他 > ディスクに変換” した
ものを作って置いてそれを `\input` することになる.

それに対して, `%#include` と `%#command — \input` の形式は JT_EXEdit がその場で
変換したものを TeX に渡す. かわりに TeX の指令を用いた細かい制御はできない. こ
の場合, 最初にその文書があるフォルダの中を探し, 次にその本があるフォルダを探す.

2.7 環境設定フォルダ

JT_EXEdit の利用者設定はすべて “/Users/名前/Library/Preferences” の JT_EXEdit****
に保存される.

2.8 外注処理

JT_EXEdit はいくつかの仕事を協力ソフトに依頼する.

MacTeX: <<https://www.tug.org/mactex/>>

TeX Users Group の pTeX. 2010 Distribution (9.1.7) 以後が必要. “JT_EXEdit
環境設定 > TeX 基本 > 場所” で `/usr/texbin` を選ぶこと.

shell tex: <<http://www2.kumagaku.ac.jp/teacher/herogw/>>

小川弘和氏による組立済み shell ptex. “Drag & Drop pTeX”. 現在では古くなっ
てしまっているので, MacTeX の方をお勧めする.

MacPort pTeX: <<http://www.macports.org/install.php>>

takanori 氏が管理者の pTeX. 組立済みではないので初心者にはお勧めできない.
(添付文書 “readme/others/macport-readme” 参照.)

Excalibur: <<http://www.eg.bucknell.edu/~excalibr/>>

Rick Zacccone 氏制作の綴り点検ソフト.

cocoAspell: <<http://cocoaspell.leuski.net/>>

Anton Leuski 氏制作の Cocoa 形式綴り点検ソフト.

2.9 辞書

(`% #-` 指令) JT_EXEdit への (前処理) 指令. いずれも行頭に書くこと.

`%#command, %#begincommand, %#endcommand`: 次の行, 間の行を JT_EXEdit への命令として
解釈する. `\input` のみに意味がある. `\input XYZ` とあれば TeX に XYZ をはめ込ん
だ形で渡す. ‘`’` や ‘`”`’ で囲む形式にすれば, その中では空白や ‘`/`’ も使える.

`%#comment, %#begincomment, %#endcomment`: 次の行, 間の行を無視する.

`##filedate: \time, \day, \month, \year` を原稿の日付に設定する。従って、`\date` などが組版の日付ではなく原稿の日付になる。
`##format latex:` TeX 様式を指定する。“TeX 様式”メニューでの指定よりも優先される。
`##include XYZ:` TeX に XYZ をはめ込んだ形で渡す。 `##command` — `\input` と同じ意味。
`##literal, ##beginliteral, ##endliteral:` 次の行、間の行を変換せずに TeX に渡す。
`##noautoinclude:` 初期化文書を読み込まない。
`##usefontdirective, ##stopfontdirective, ##resetfontdirective,`
`##usesizedirective, ##stopsizedirective, ##resetsizedirective,`
`##usestylepictdirective, ##stopstylepictdirective, ##resetstylepictdirective:`
 “環境設定... > TeX 基本 > 書体と絵を埋め込む”を一時的に変更する。 `use` で変換, `stop` で変換しない, `reset` で初期設定に戻る。

(書式)

`\JTeXStdSize:` A4, `\magstep1` に設定。(L^AT_EX では不可.)
`\setallskips{1pt}{1pt}:` (plain) 最初に `\input setallskips` すればこれで行間隔を指定できる。広げたければ `{1.5pt}{1.5pt}` 位で試す。
`\AdjustKanjiSize:` pTeX での日本語を jis 標準の大きさにする。`\mc, \gt` のみに対応。LaTeX の場合は `\begin{document}` よりも前に宣言すること。
`\JTeXVersion:` J_TE_X の version. 現在は 5.0. これは J_TE_XEdit の version とは違う。
`\Quiet:` 特に L^AT_EX で、あまり意味のない `\message` を抑制する。

第3章 PictPrinter 5.2

このソフトの機能:

- TeX での画像の埋め込みや画面の表示を強化してある.
- shell tex での原稿との同調機能 (変更点に自動追従) を実現している.
- J_TE_XEdit との相互参照が可能.

3.1 インストール

1. 基本的な TeX 用フォントを CTAN, bluesky research, JTeX などの WWW ページから入手してインストールしておく. それ以外のフォントは, 多くの場合 texlive から Mac 用フォントが自動的に生成される.
2. PictPrinter を起動し, “PictPrinter >環境設定...” メニューで環境設定ダイアログを開く.
3. TeX 基本 >Shell TeX を選択する.
4. JTeXEdit に PictPrinter を登録する. (JTeXEdit の “環境設定... >環境 >併用するソフト” で PictPrinter に ✓ を入れる.)
5. フォントのインストールのしかたによっては TeXShop で不具合がなくても PictPrinter で不具合があることがある. 表示に問題があるときは後述の “フォントについて” を参照すること.

3.2 使用法

1. JTeXEdit で, “組版 >Unix TeX 自動表示 >PictPrinter” メニューを選ぶ.
2. JTeXEdit で組版すると, 自動的に PictPrinter が結果を表示する.

3.3 PictPrinter の機能

3.3.1 画面

- “図として/文として”, “エディタへ/URL へ” 切り替えボタン: クリックが何を指示するかは “選択” メニューの “文として”/“図として” と “URL に跳ぶ”/“エディタに跳ぶ” の選択で異なる. その選択は上部のアイコンでも確認と選択ができる. 選択した部分をマウスで運んで他のソフトに文字列/pdf の形式で渡すことができる.
単なるクリック: 図/文 の選択に従い, 文字列/長方形領域の選択, 複写, マウスで運ぶ, ことができる. ページを越えての選択はできない.
shift-クリック: 選択範囲を拡大/縮小する. (“文” では shift-矢印 も使える.)
command-クリック, ダブルクリック: HyperTeX でリンクされていればそこに移動する. そうでなければ URL/エディタ の選択に従って WWW/JTeXEdit に移動する. ただし, 選択文字列を command-クリックした場合は, WWW/JTeXEdit が優先されてその文字列が渡される. URL が画面上 2 行にわたる場合は “文として” で URL を選択して command-クリックを使うこと.

option/alt-クリック: 画面を拡大表示する.

control-クリック: 状況メニューを表示する. 押し続けでも表示する.

- 目次, DVI の PDF ブックマークや HyperTeX の目次の対応する場所に跳ぶ.
- 分割ボタン, 削除ボタン: スクロールバーの上端にある. 表示を分割, 削除する.

3.3.2 メニュー

- ファイル メニュー

設定を保存: “印刷位置...”, “背景...” などの設定内容を文書に保存する.

PDF を生成...: Mac OS の方が図版や文字の濃さなど表示通りの結果が得られるので, そちらを勧める. しかし, dvipdfmx に比べて変換が遅くて大きい pdf を生成するという欠点がある. dvipdfmx での日本語フォント埋め込みは添付の “[readme/others/日本語フォント埋め込み-readme](#)” を参照のこと.
“1-3,6” のように不連続なページも指定できる.

- 編集 メニュー

複写: 選択の種類に応じて選択範囲を複写する.

選択区域を拡張: 絵として選択された区域と交わる対象を選択する.

選択区域を絞る: 絵として選択された区域に含まれる対象を選択する.

- 移動 メニュー

検索..., 次を検索: 文字列を検索する. ただし, 記号や空白は無視される.

URL に跳ぶ: WWW などを開く.

エディタに跳ぶ: 選択点に対応する部分を原稿で表示する.

目次: DVI の PDF ブックマークや HyperTeX の目次に対応する場所に跳ぶ.

- 表示 メニュー

背景...: 単色, 濃淡, 絵の 3 種の背景が選べる. 文字色の反転もできる.

大きさ: 画面の拡大率.

回転: そのページの変換方向を変える. option/alt とで全てのページの向きを変更する.

全画面表示: 全画面表示専用の特別なキー操作が “H” か “?” で表示される.

表示を分割, 分割を閉じる: 表示を上下に分割する, 閉じる.

選択色を上塗り: `wallpaper.sty` などを選択枠が表示されない場合に用いる.

TeX の字を濃く: プロジェクタに出力するときなどに文字を濃くなる.

図を表示, 図をメモリに保持: 通常は ☒ を入れる.

ps-special を無視: 通常は ☒ を入れない.

- ウィンドウ メニュー

エラー報告: dvi に誤りがあったときなどはここに出力される.

- Help メニュー

キー操作: キー, マウス操作の一覧を表示する.

3.3.3 環境設定

- TeX 基本

Shell TeX: 標準的な teTeX なら一覧から選べばよい.

Textures: 場所を設定する. 再設定の場合は一度 ✓ を外してから入れ直すこと.

フォントフォルダ診断...: TeX の文字が正常に表示されない場合はこれで診断すること. フォントについて 参照.

pTeX JFM...: pTeX の日本語に対応する Mac 文字を指定する. min にヒラギノ明朝 Pro W3 を, goth にヒラギノ角ゴ Pro W3 を指定して, 他のものには (標準明朝字体を使用) または (標準ゴシック字体を使用) を指定するのが標準.

漢字一覧...: 漢字の一覧をポストスクリプト名を付けて出力する.

Textures 漢字...: Textures の日本語に対応する Mac 文字を指定する.

- TeX 表示

色: (色を表示/印刷): 色指令を画面表示/印刷する.

(リンクを表示/印刷): HyperTeX 指令部分に色をつける.

線の太さ: \underline などが細すぎれば調整できる.

- 表示:

紙の方向を自動的にあわせる: 横長の形式の文書のときに印刷設定を変更する.

裏の選択色: 前面にないウィンドウでの選択色.

選択色を上塗り: wallpaper.sty などを選択枠が表示されない場合用. ここでは ✓ を入れず, “表示 > 選択色を上塗り” メニューを使うのが標準.

講演用巨大カーソル: 全画面表示の時に聴衆に見やすい大きなカーソルを表示する.

- 複写/印刷

図の複写とマウスでの引きずりの設定.

印刷パネル: プレビュー画像かプレビューボタンを表示する.

- ウィンドウ

表示解像度: 正確に設定すれば A4 の紙がモニタ上で A4 の大きさに表示される.

- その他

標準エディタ: DVI に対応する原稿を表示するためのエディタを指定する.

スクロールの早さ: スクロールバーの矢印でのスクロールの早さ.

状況メニューの間: control キーなしで状況メニューを表示するまでの時間.

3.4 フォントについて

- 文字が正常に表示されない場合は Fonts フォルダの中に問題があることが多い. まず “環境設定... > TeX 基本 > フォントフォルダ診断” で診断すること.

- フォントを入れたフォルダではなく, フォントを直接 “Fonts” フォルダに入れる.

- Screen Font (“CM/PS Screen Fonts” など) も入れる.

- 同名のフォント (CMR10.ttf とか) は入れない.

- Applied Symbols (AMS.dfont, CM_1.dfont, CM_2.dfont, CM_3.dfont, CM_4.dfont, Euler.dfont, LaTeX.dfont, WNCY.dfont) は通常使われている Blue Sky 社配布の TeX フォントと共存できない. PictPrinter は Blue Sky 社配布の TeX フォントを想定しているので Applied Symbols は Fonts フォルダから削除すること.

- PictPriner で表示するためには Mac 用のポストスクリプトフォント以外に TeX \Rightarrow グリフ対応表が必要だが、通常の TeX フォントは shell tex に登録されているので作成する必要はない。登録されていない場合でも、ポストスクリプトフォントと同時に pfb を入手できれば、それを `fonts/type1` フォルダの中に入れればよい。どれもない場合は GlyphViewer を使って手作業で対応表をつくる必要がある。GlyphViewer の説明を参照のこと。

3.5 その他

- ps ファイルはそれと同じフォルダの pdf に自動変換してから表示する。ps ファイルが更新されると pdf ファイルを自動更新する。ただし、安全のために PictPrinter 5.1c 以上で自動変換されたファイルに限る。
- JTeXEdit 以外のエディタからの制御は、エディタ側が apple event に対応することによって可能になる。PictPrinter と JTeXEdit の scriptSuite, scriptTerminology を参照のこと。検索文字列はアルファベット (27 \times 2 文字) と日本語のみを許す。
- ファイルを別の種類のファイルとして扱うことができる。sample/UTIMap.plist の help 参照。

第4章 その他

- このソフト群の著作権は小磯憲史が持つが、原形であることを条件として自由に配付してもかまわない。このソフトを用いて作ったものに関してはその製作者の責任において自由に配付してもかまわない。原形とは本来の JTeX****.tgz または JTeX****.zip 圧縮形式のこと。

- - このソフトは Apple の Xcode 7.2 を用いて作った。

- JTeXEdit の編集機能は OS X 標準のものだが、以前の開発で WASTE にお世話になった。現在でも、一部の C-構造体は WASTE <<http://www.merzwaren.com/waste/>> のものを用いている。

- PictPrinter は Textures と内山氏の xdvi を参考にした。Textures 用として出発したが、xdvi の機能も部分的に取り入れ、現在は独自の機能がかなりの比重を占めている。HyperTeX 機能は Arthur Smith 氏の hypertext.c を参考にした。

- JTeXEdit の編集機能の多くは Textures から出発した。目印、目次メニューは“ミミカキエディット”（現“mi”）の利用者の意見を参考にした。

- - このソフトは <<http://www.math.sci.osaka-u.ac.jp/~koiso/>> に置いてある。不具合の報告や改善の要望は koiso@math.sci.osaka-u.ac.jp にどうぞ。

- 不具合の修正は不具合を私が再現できるかどうかにかかっている。再現するための情報を報告すること。

- 落ちてしまう不具合の場合は、“レポート...” ボタンを押して、表示される「問題およびシステムに関する情報」を含めて報告すること。なお、“/ユーザ/名前/ライブラリ/Logs/CrashReporter/JTeXEdit.crash.log”などに同じ記録が残されている。

- 虹カーソルが出る不具合の場合は“アプリケーション/ユーティリティー/アクティビティモニタ”で JTeXEdit, PictPrinter を選んで“プロセスをサンプル収集”したものを添付して報告すること。

索引

- `%#command`, 15
- `%#format`, 16
- `%#noautoinclude`, 16
- `%#usestylepictdirective`, 16
- `.=`, 10
- `.xfer`, 10
- AMSTeX, 12
- cocoAspell, 15
- command-クリック, 4
- e-mail, 4
- Excalibur, 7, 15
- Flash mode, 8
- Follow focus, 8
- JTeX の書式, 14
- Latex mode, 12
- log, 5
- Mac の特殊記号, 14
- Perl, 9, 13
- PictPrinter, 8, 17
 - アイコン, 4
 - で原稿の変更場所を表示, 12
- Script を実行, 9
- shell tex, 15
 - の使用法, 4
- ShellTeX
 - 自動表示, 8
- src-specials, 8
- TeX 基本パネル, 11
- TeX 詳細パネル, 12
- TeX 文字符号, 8
- WWW, 4
- 後に移動, 9
- 誤り発見の鍵を設定..., 12
- 一時書類
 - を消去, 12
 - を保持, 8
- 色
 - 付け, 10
- パレット, 11
- `\cs` の —, 10
- 原稿の —, 14
- ウィンドウ
 - を組版, 8
- ウィンドウパネル, 10
- ウィンドウを走査, 8
- 絵
 - の情報, 7
 - 原稿の —, 14
- お好みメニューアイコン, 5, 11
- 改行形式, 6
- 拡大縮小
 - アイコン, 5
- 簡易置換, 6
- 環境設定
 - ウィンドウ, 10
- 環境設定フォルダ, 15
- 環境パネル, 12
- 環境を再走査, 12
- 行番号
 - パネル, 5
- 組版, 8
 - 結果を保持, 8, 12
 - を自動的に開く, 12
 - を表示/印刷, 8
- 原稿
 - の書体・色・絵, 14
 - の文字, 14
- 原稿印刷
 - パネル, 11
- 原稿の書体と絵を組版に埋め込む, 12
- 原稿変更時に再組版, 8
 - shell tex の, 12
- 検索
 - ウィンドウ, 13
- 検索パネル, 11
- 項目設定
 - ウィンドウ, 13
- コンテキストメニュー, 5, 11
- 参照アイコン, 5

参照メニュー, 11

辞書, 15

実行/選択

- ボタン, 5

指定行に移動..., 7

状況メニュー設定, 11

初期化文書を読み込む, 8

書体

- 原稿の —, 14

指令, 1, 12

- 設定, 9
- メニュー, 9

数式の定義, 11

スクリプト文書, 6

図版

- 原稿に貼り付けた —, 14

正規表現, 13

設定項目, 6

設定を書き出す..., 12

設定を読み込む..., 12

選択名の文書を開く, 5

相互参照, 17

単一書体のみ使用, 6, 10

単語入力補完, 6

地球アイコン, 4

注釈記号, 6

綴り点検, 7

定型文, 6

ディスク

- に変換, 8

道具欄メニュー, 11

入力パレット, 6

はめ込み文書, 15

表示ソフトを追加..., 11

ファイルパネル, 10

ファイルメニュー, 5

複数回組版, 8, 12

複数書体, 10

分割組版, 14

平行検索, 13

併用するソフト, 12

変換形式, 8

変更点に自動追従, 8

変更場所

- PictPrinter で原稿の — を表示, 12

編集ウィンドウ, 4

編集基本パネル, 10

編集字体パネル, 10

本棚メニュー, 9

目印

- アイコン, 5

メニューキー, 11

メニューパネル, 11

目次

- アイコン, 5

文字 (原稿の), 14

文字符号, 6

文字列変換, 6

様式, 8

よく使う文書, 5